

心構え

2024.8.6

よく、心構えが大事、心構えがなっていないなどと使う。心構えとは何なのか。物事に対処する心の準備であり覚悟のことであろう。用例としては、いざというときの心構えなどがある。心構えを別の言葉で言い換えると、どんなものが考えられるか。心がけや気構えなどであろうか。心がけは、ある目的に対するものというより、どんな事態にもいつでも対応できるような心の準備をいう。気構えは、ある目的を必ず達するという意気込みを含んだ心の準備である。

このように、違う言葉と比較することで、その言葉の意味がはっきりしてくることがある。心構えは、ある目的に向けての心の準備である。この心構えは、一度準備できたら、ある一定の期間はそれを持続できるようなものだと思っていた。しかし、どうやら、そうではないようである。

心構えというのは、どんなに磨いても毎日ゼロになる能力である。毎朝歯を磨くように、心構えも毎朝磨き直さなければならない。

この言葉と出合った。なるほど、そうだったのか。言われてみればそうかもしれない。若い頃、小学校の教員をしていた。本を読んだのか、先輩から教わったのか、研修で言われたのかは忘れてしまったが、毎朝、鏡を見て笑顔をつくってから学校に行くようにと教わった。今どきの先生方も、このようなことをやっているのだろうか。

教員をしていると、一人の人間として生活している以上、いろいろなことが起こる。落ち込んだり、悲しんだり、苦しくなったりするのは当たり前である。だが、それを引きずったまま子どもの前に立つのはどうなのだろうか。心のうちは別としても、表情は、いつものように笑顔でにこやかにしていなければならない。そのために、鏡の前に立つのであろう。

朝の時間帯のどこかで、スイッチを入れるということではないか。校長のときには、毎朝、校長室に入った途端に、スイッチが入ったように思う。では、現在はどうか。毎朝、駐車場に車を置く。幼稚園に向かって歩く。玄関を開ける。気づいたのだが、スイッチが入るといほどの強いものがない。スイッチというのは、「よし、今日もやるぞ」という気合いのようなものであろう。

幼稚園の先生方は、毎朝、どこかでスイッチを入れているのだろうか。幼稚園の先生には、にこやかな笑顔が絶対条件である。私の場合は、どうやら、心構えが足りないようである。若い頃に帰って、毎朝、鏡を見ながらニコニコと笑顔をつくってから出勤してみようか。心構えは、毎朝、磨き直さなければならない。